



社協シンボルマーク

すまあい

第6号

平成19年1月26日発行

発行 志布志市社会福祉協議会
志布志市志布町志布志3222-1 (志布志市健康福祉センター内)
TEL: 472-1800 FAX: 472-1593



(被表彰者の方々との記念撮影、コミュニティセンター志布志市文化会館にて)

第1回志布志市社会福祉大会を開催！

目次

- * 新年のごあいさつ (会長、副会長)…………… P2
- * ひとり金婚式開催…………… P3
- * 赤い羽根共同募金街頭募金を実施
- * 第16回共同募金チャリティゲートボール大会開催
- * 第1回志布志市社会福祉大会を開催……………P4
- * NPO法人三方良を紹介します……………P8
- * かんたんレシッピー！
- * シリーズ健康の泉…………… P9
- * クイズ“ふれあい”
- * 心配ごと相談日程

- * 輪多市 (私) のボランティア…………… P10
- ・ バリアフリー体験学習～泰野小学校～
- ・ ほったた落ちそう！～野神サロン～
- ・ まごころお届けします！～絵手紙～
- ・ 朗読ボランティア『鈴 (りん)』始動！
- ・ 年の瀬の贈り物
- * 寄附金・義援金ありがとうございます…………… P12
- * 生活福祉資金貸付事業について
- * 編集後記



この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。

新年の

ごあいさつ

会長 上村 環



二〇〇七年の新年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

平成十八年は合併により志布志市の誕生と同時に志布志市社会福祉協議会も誕生しました記念すべき年でもあります。

新たな役員・職員体制のもと、事業計画に沿って各種事業に取り組んでまいりましたが、市民の皆様におかれましては志布志市社会福祉協議会の福祉事業遂行に多大なるご協力、ご理解を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、少子・高齢化の進展等社会環境が変化する中、社会福祉を取り巻く状況につきましては、三位一体の改革や行財政改革の進行、また、昨年四月に施行された改正介護保険法や障害者自立支援法など社会福祉

諸制度に関する改革も相次いで行われており、今後の社協活動を推進するに当たって厳しい状況が続くことが予想されます。

それだけに、志布志市社会福祉協議会は組織体制を整備して、住民参加による福祉活動やボランティア活動、利用者の立場に立った介護保険事業などを一層進め、市民の福祉需要にきめ細かく対応していく必要があります。

平成十九年も市民のご期待に沿えるよう、関係機関、団体等との連携を深めながら、これまで実施してきた福祉サービスの見直しや拡充を始め、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らしていけるような福祉のまちづくりを目指して、社協らしい、公共性の高いサービスの展開など、地域福祉の推進役として役員員一同一致団結して取り組んでまいります。市民の皆様方もなお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

亥の年が皆様に良い一年であることを祈念いたしまして年頭のあいさつといたします。



副会長 吉岡 道德



新年明けましておめでとうございます。

穏やかな二〇〇七年の幕開けとともに、今年にかけの期待や希望も大きくふくらんで、すがすがしい気分になります。

市民の皆様におかれましては健やかに新たな年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は事業推進並びに運営に格別なるご厚情を賜り、衷心からお礼を申し上げます。

福祉を取り巻く環境は、いま少子・高齢化が急速に進行し、家庭機能や地域社会の機能が変化し、また団塊時代も訪れる中、三位一体改革や行財政改革の進展と併行して、介護保険、障害者自立支援、次世代育成支援等、抜本的な施策の見直しが進められるなど、大きな節目にあります。

二〇〇六年の世相を象徴する年の

漢字に「命」が決まりました。

秋篠宮家の長男「悠仁様」誕生で「生れた命」に注目、一方いじめ、自殺や虐待、飲酒運転事故など痛々しい事件が相次ぐなか、「かるく見るなよ命の重さ」、命の尊さ・大切さを改めて認識し考えさせられた一年だったと思います。

折りしも、相互扶助を理念とする、安全で安心して暮らせる快適な地域社会、づくりに対する市民の理解と関心をより一層高めたいと思います。

終わりに市民の皆様にとつて、今年には干支イノシシの年であります。勢いある社会でありますとともに、ご家族の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。新年のあいさつと致します。



ひとり金婚式開催



出席者一同、記念写真を撮りました。

戦後復興に拍車がかかりだした昭和三十一年に結婚され、今日まで五十年もの年月を、その苦楽を共にされた伴侶を胸にしまいながら生きてこられた方々への労いと敬意を込めて、十一月十六日（木）、蓬の郷（有明町）において「ひとり金婚式」が

開催されました。祝詞並びに記念品贈呈から始まり、記念撮影、上村環社協会長より主催者あいさつを頂きました。お互いの苦労話や懐かしい昔話等で終始和やかに過ごされました。



和やかな雰囲気にもわれました。



巖ちゃん一座によるアトラクション

● 募金総額 ● 115,132円

- 松山中学生募金活動 : 30,806円
- 募金箱 : 2,164円
- 水彩画,手芸品,バザー
売上げより : 41,390円
- 建築士会曾於支部より : 22,222円
- 農業共済組合より : 18,550円

多数の善意とご協力、誠にありがとうございました。



**赤い羽根共同募金
街頭募金を行いました。**
「やちく秋の陣まつり」にて十一月十二日（日）、松山町で開催された「大隅の國やちく秋の陣まつり」会場において、松山中学校生二十二人が共同募金活動を行いました。



大いに盛り上がりました。



● 募金総額 ● 八〇、二四三円

● 場 所：市役所前多目的広場

**第十六回共同募金
チャリティゲートボール大会を開催**
スポーツを通じて、楽しみながら共同募金に協力していただくことを目的としまして第十六回共同募金チャリティゲートボール大会を開催しました。この大会は、旧有明町で毎年開催されてきましたが、志布志市においても引き続き開催いたしました。
当日は二十五チーム、百二十五名の方が参加し、一ゲート通過ごと十円以上、上りは百円以上といつとも違ったゲーム方式で楽しんで競技されました。多数の参加とあたたかいご協力に厚く御礼申し上げます。

第1回

志布志市社会福祉大会

十一月二十五日(土)、コミュニティセンター志布志市文化会館において、合併して初めての「志布志市社会福祉大会」が『住みやすい・やさしい・福祉のまちづくりをめざして』を大会テーマに開催されました。



ちりめん太鼓の演奏

オープニングは、志布志市を代表するちりめん太鼓の力強い演奏で幕は上がりました。

大会は主催者を代表し、志布志市社会福祉協議会上村環会長のあいさつ、本田修一志布志市長のあいさつで始まりました。

その後、長年にわたり、地域の福祉向上に貢献されてきた方々や、家庭において介護に尽くされた方の表彰や第一回福祉作文・絵画コンクール表彰式が行われました。来賓として、志布志市議会谷口松生議長、鹿児島県

議会市ヶ谷誠議員の祝辞をいただいたのち、福祉作文最優秀賞、小学校の部・川原康生さん(八野小)と中学校の部・久神鈴穂さん(宇都中)が作文を朗読し、大会に参加された方々は深い感銘を受けていたようでした。

記念講演では、「若さを保つ運動と食生活」と題しまして、創美社会体育研究所丹波美智子所長の講演がありました。会場の方々と一緒にストレッチ体操をされたり、日常の食生活と病気の知識や長寿食などのお話が大変勉強になったことと思います。

福祉関係者が一同に介して、志布志市の福祉の充実と発展を図る為開催したこの社会福祉大会を、盛会のうち閉会いたしました。



講師の丹波美智子さん

被表彰者

(敬称略)

① 民生児童委員として八年以上その職務に従事し、功績が顕著であつて、現に在職している方

- ・田中 保 (志布志町)
- ・大脇 裕子 (志布志町)

② 社会福祉施設の長及び職員並びにホームヘルパー・相談員として十二年以上その職務に従事し、功績が顕著であつて、現に在職している方

- ・稲付 文子 (小松の里介護職員)
- ・山中 恵子 ()
- ・中崎 律子 (小松の里デイサービス職員)
- ・小松 頼子 ()
- ・平田 隆子 (志布志市社会福祉協議会デイサービス職員)

- ・清武多鶴子 (志布志市社会福祉協議会介護支援専門員)
- ・松山 昭子 (志布志市社会福祉協議会訪問介護員)
- ・有村日左子 (志布志市社会福祉協議会訪問給食調理職員)

③ 社会福祉団体等の役員及び職員として、九年以上その職務に従事し、功績が顕著であつて、現に在職している方

④ 五年以上にわたり、寝たきり老人・重度心身障害者(児)等を献身的に介護している方

- ・柳 三男 (志布志町)
- ・豊留キヨ子 (松山町)

・立山 茂雄

(有明町 手をつなぐ育成会)



被表彰者代表謝辞 (田中保さん)



表彰式の様子

福祉作文・絵画コンクール入賞者及び入賞校 (敬称略)

福祉作文の部

最優秀賞

小学校の部	八野小学校	3年	川原 康生	『ぼくの声がとどくまで』
中学校の部	宇都中学校	1年	久神 鈴穂	『お年寄りには優しい道を』

学校賞

小学校の部	八野小学校
中学校の部	宇都中学校

福祉絵画の部

最優秀賞

小学校の部	安楽小学校	1年	峯崎 裕大	『おじいちゃんの顔』
中学校の部	宇都中学校	1年	阿多 夏美	『食べてね』

学校賞

小学校の部	尾野見小学校
中学校の部	宇都中学校



福祉作文・絵画コンクール



作文朗読 (久神鈴穂さん)

福祉絵画コンクール

最優秀賞作品紹介



「食べてね」

福祉絵画コンクール 中学校の部
最優秀賞 宇都中学校 1年
阿多 夏美



「おじいちゃんの顔」

福祉絵画コンクール 小学校の部
最優秀賞 安楽小学校 1年
峯崎 裕大



福祉作文コンクール 最優秀賞作品紹介

最優秀賞

小学校の部

ぼくの声がとどくまで



八野小学校 三年

川原 康生

「じいちゃん。こうきだよ。」

「おお、来たか。元気じゃった

かよ。」

遊びに行くと、いつも、にっこ

りわらって出むかえてくれた。

ぼくのひいじいちゃんは、今年

で九十二才になる。ぼくが生ま

れるずっと前に、おばあちゃん

をなくし、せんたく、そうじ、

料理など、一人でなんでもこな

す元気なじいちゃんだ。わかい

ころは、野さいの作り方を教え

る仕事をしていたので、今でも

畑には、たくさん野さいを作

っている。遊びに行つて、エン
ドウマメやトマトをじいちゃん
といっしょに、とっている時の
ことだ。

「じいちゃん、ぼくも学校でト

マトを作っているんだよ。」

と言うと、

「トマトはね、水をきらうから、

かさをさして、雨をよけっや

つと、よかトマトがでくっ

ど。」

と教えてくれた。じいちゃんの

畑のトマトを見ると、真っ赤に

うれていて、ルビーのようにピ

カピカと光っている。やっぱり、
じいちゃんは、野さい作りの名
人だ。

じいちゃんには、もう一つと
く意わぎがある。それは、グラ
ウンドゴルフだ。八十才のころ、
九しゅう大会でゆうしょうして、
全国大会に出場したそうさだ。そ
の時のことを、いつもうれしそ
うに話してくれた。ぼくも、学
校でやってみたけど、力を入れ
たり、ぬいたりするのがむずか
しくて、なかなか思うように転
がらなかった。それなのに、じ
いちゃんは、全国大会にまで行
つて、すごいなあと思った。

そんな、いつも元気で、なん
でもできるぼくの大すきなじい
ちゃんがるう人せいちほうしよ
うになり、一人では生活するこ
とがむずかしくなったので、ろ
う人ふくししせつに入らなけれ
ばならなくなつた。そこでは、
大すきな野さい作りも、グラウ
ンドゴルフもできないので、か

わいそうだけど、仕方がない。
夏休みに入り、母といっしょ
に、じいちゃんのお見まいに行
くことになった。あり明に向か
う車の中では、ひさしぶりにじ
いちゃんに会えるうれしさで、
ぼくは、うきうきして今にもと
び出しそうだった。しせつにつ
くと、ちようど、この日は、し
せつのおまつりの日で、じい
ちゃんは、手をたたきながら、
うれしそうにおどりをしている
所だった。

「じい・・・。」

ぼくが、大声でよぼうとしたら、
母が口をふさいだ。ぼくたちの
顔を見ると、じいちゃんが家に
帰りたくなつてしまうから、は
なれた所でこっそり見るだけだ
と言われた。ぼくは、がっかり
したけど、心の中で、じいちゃ
んこうきだよ。ときけんだ。

いつか、おなかのそこから、
「じいちゃん、こうきだよ。」
と言う、ぼくの声がとどく日が、
きつと、きますように。

お年寄りには優しい道を



宇都中学校 一年
久神 鈴穂

「あそこのイスにすわって休ましよう。」と、父が言う。みんなが賛成し、汗をふきながら休けい所をめざす。右、左、右、左：近くて遠いイス。屋台の何気ないコードがじゃまをする。通路まではみだしている荷物がじゃまをする。私にとって、一分で行ける道はおじちゃんにとって、五分の道だ。おじちゃんは汗びっしょりだ。

（早くして！早く休みたいよ。）という私のわがままな気持ちは、いつしか（大変だな。）という気持ちに変わった。自然と手をおして、手をつなぐ。弟は背中を

けて休けい所まで歩いた。この夏休み、福岡まで行く機会があった。私の祖母と、家族。そして、祖父の兄「としおじちゃん」と一緒に。おじちゃん、「知的障害」を持っている。じんぞうも少し悪く七十八才という高齢だ。ふだんは家と畑に

るように歩くおじちゃんには、コード一本、二センチメートルほどの段差一つまたぐ事は難しい。だけど、高速道路のパーキングエリアのトイレまでは、コード、段差、荷物、そして商品までもが道にあふれていた。私にとって、何でも無い事がお年寄りや、体の不自由な人にとっては、大変なことなのだ。

